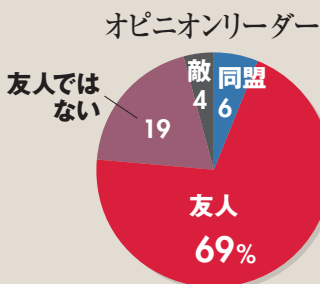
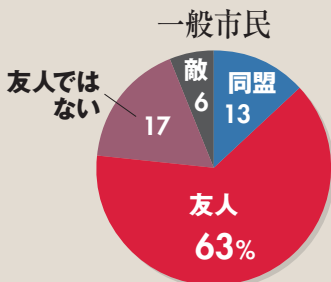
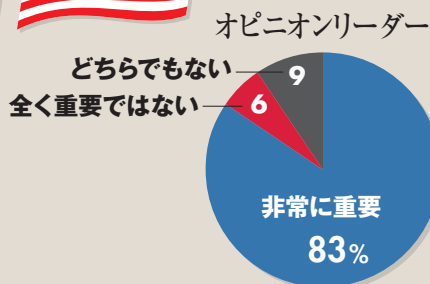
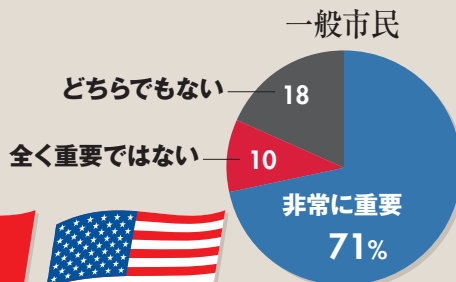


米国人にとっての中国とは

中国と米国はどのような関係か



中国は米国にとって重要な国か



*2011年12月に実施されたGallup社とChina Daily USAの共同調査に基づいて筆者作成

FLINT HILL

互いに激しく主張をする間柄に 習近平訪米に見る米中関係成熟

先日、米民主党の旧知の友人から食事会に招かれた。たまたまその日に中国の習近平国家副主席が公式訪問でワシントンを訪れていたため、話題はおのずかと習近平に集中した。友人の関心はもっぱら習近平体制下の中国の政治の動きであったが、私は氏の訪米と今後の米中関係に注目していた。

友人から習近平が中国の民主化を率いるリーダーになるかと聞かれたが、私はその可能性が極めて高いと答えた。習近平が胡錦濤からバトンを受ける中国は、指導部が自らの手で政治体制を改めるか、大衆革命で政権が転覆されるかの瀬戸際に立っているというのが私の判断の根拠である。

一方、習近平時代の米中関係にどのような展望を持つべきかという私の問いに、友人は正面からの答えを避けて、「米中関係の安定のためには両国間で真の信頼関係を築かなければならない」と強調した。

そう聞くと、「相互信頼の欠如が米中関係の発展を妨げるものだ」という習近平訪米直前の記者会見での崔天凱中国外交部副部長の話を思い出した。おのおの

日本総合研究所
理事
呉 軍華
Wu Junhua

の思惑があるにせよ、米中も中国も信頼関係の欠如に強い危機感を持っているようである。こうした雰囲気の中でワシントンを訪れた習近平に対して、米国が首脳並みの厚遇で歓迎しつつも人権問題から貿易不均衡、知的財産権保護まで幅広いテーマを取り上げ、厳しく中国の対応を迫った。これに対し、習近平も中国の立場を強く主張し切り返した。

こうした激しいやりとりを根拠に、現在の米中関係は極めて厳しい状況にあるとの指摘がある。しかし、私はそうは思わない。むしろ、米中が友好をうたいながらも互いの主張を率直にぶつけ合えるようになったことは米中関係の成熟化が大きく前進した証左といえる。

国と国の関係も人間同士の関係と同様、相手を一人前の人間として認めて、初めて真の信頼関係が生まれる。その意味で、今回の米中のトップ会談は、米中の信頼関係を構築する上で、極めて意義のあるものであった。

今後、時に厳しい対立が生じても、全体としての米中関係はむしろ安定的に推移していくものと思われる。